

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学 I - 3

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	柳原 功典	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	2 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	鍼灸臨床に活かせる解剖と生理学を統合して学習することを目的とする。
授業の一般目標 (GIO)	解剖学総論・内臓系・内分泌系・脈管系の正常構造について復習する。

【担当教員から】

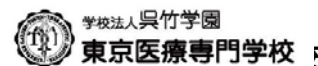
教科書	解剖学 (学校協会編)
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 構造機能学 I -3 2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	1	人体の正常な構造機能(解剖学概論)	人体を構成する細胞と組織の分類ができる。	講義
	2	人体の正常な構造機能(循環器)	心臓の構造について図を描いて説明できる。	講義
	3	人体の正常な構造機能(循環器)	脈管系を図示しながら説明できる。	講義
	4	人体の正常な構造機能(呼吸器)	呼吸器について特徴を説明できる。	講義
	5	人体の正常な構造機能(消化器)	口腔から肛門までの消化器を図示し、特徴を説明できる。	講義
	6	人体の正常な構造機能(消化器)	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜を説明できる。	講義
	7	人体の正常な構造機能(泌尿器)	泌尿器の構造を説明できる。	講義
	8	人体の正常な構造機能(生殖器)	男性生殖器の特徴と受精と発生を説明できる。	講義
	9	人体の正常な構造機能(生殖器)	女性生殖器の特徴と胎児循環を説明できる。	講義
	10	人体の正常な構造機能(感覚器)	特殊感覚器の構造と特徴を説明できる。	講義
	11	人体の正常な構造機能(感覚器)	特殊感覚器の構造と特徴を説明できる。	試験
	12	人体の正常な構造機能(まとめ)	2期学習範囲の理解不十分な部分を説明する。	講義
3期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			

10			
11			
12			

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科



【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学Ⅱ－3

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	柳原 功典	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	鍼灸臨床に活かせる解剖と生理学を統合して学習することを目的とする。
授業の一般目標 (GIO)	体表解剖について理解し説明できる。 神経系、運動系の正常構造について復習し、治療に行かせる知識を習得する。

【担当教員から】

教科書	解剖学 (学校協会編)
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと

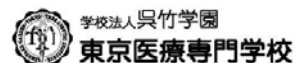
履修にあたっての留意点	
-------------	--

【授業計画】 構造機能学Ⅱ-3 2021年度 I部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	末梢神経系の概要	末梢神経の概要を図示できる。	講義
	2	末梢神経系の概要	頸髄、腰髄、仙髄からの末梢神経を挙げることができる。	講義
	3	運動器の構造機能(頸肩四肢)	上肢の筋、骨、支配神経、作用を述べることができる。	講義
	4	運動器の構造機能(頸肩四肢)	上肢の筋、骨、支配神経、作用を述べることができる。	講義
	5	運動器の構造機能(腰下肢)	下肢帯の筋、骨、支配神経、作用を述べることができる。	講義
	6	運動器の構造機能(腰下肢)	下肢の筋、骨、支配神経、作用を述べることができる。	講義
	7	運動器の構造機能(体幹)	腹部の体表解剖を理解し、筋、骨、支配神経、作用を述べることができる。	講義
	8	運動器の構造機能(体幹)	背部の体表解剖を理解し、筋、骨、支配神経、作用を述べることができる。	講義
	9	運動器の構造機能(頭部)	頭部、後頸部の体表解剖を理解し、筋、骨、支配神経、作用を述べることができる。	講義
	10	運動器の構造機能(頭部)	顔面部、前頸部の体表解剖を理解し、筋、骨、支配神経、作用を述べることができる。	講義
	11	試験	1期試験	試験
	12	運動器の構造機能(まとめ)	1期のまとめをおこない、運動器系の仕組みと作用を述べることができる。	講義
2期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
3期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			

0797	8		
	9		
	10		
	11		
	12		

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能



【科目】 構造機能学Ⅲ－2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	橋本 和道	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	構造機能学と病理学の知識を基に、現代医学的理論に基づいた治療を考えられることを目的とする。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体の構造と機能の正常な状態と、病的な状態を理解する。 ・ 疾病の成り立ちと形態学的特徴を理解する。

【担当教員から】

教科書	生理学（第3版）：東洋療法学校協会編 病理学（第2版）：東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の習熟度の確認 修得した知識の応用力</p>
成績評価方法	<p>1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案 して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>

授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習と発展を行うこと
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマートフォン、携帯電話の使用は原則禁止 ・教科書中心の予習、復習と発展をすること

【授業計画】 構造機能学Ⅲ－2 2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	人体の正常な構造機能と病理 (循環)	心周期と心電図の関連を説明できる。循環の調節を説明できる。	講義
	2	人体の正常な構造機能と病理 (循環)	循環障害について例を挙げて説明できる。	講義
	3	人体の正常な構造機能と病理 (免疫)	生体の免疫反応、炎症とアレルギーの仕組みについて説明できる。	講義
	4	人体の正常な構造機能と病理 (免疫)	免疫系の異常による病態について説明できる。	講義
	5	人体の正常な構造機能と病理 (内分泌)	おもな内分泌腺の位置と分泌されるホルモン、その働きを説明することができる。	講義
	6	人体の正常な構造機能と病理 (内分泌)	ホルモンの分泌異常について具体的な例を挙げることができる。	講義
	7	人体の正常な構造機能と病理 (自律神経)	自律神経の作用と、神経伝達物質、受容体を挙げることができる。	講義
	8	人体の正常な構造機能と病理 (自律神経)	自律神経の作用と、神経伝達物質、受容体を挙げることができる。	講義
	9	人体の正常な構造機能と病理 (筋と運動)	興奮収縮連関について説明することができる。	講義
	10	人体の正常な構造機能と病理 (筋と運動)	徒手検査に用いる主な反射について、その機序を説明することができる。	講義
	11	試験	試験	試験
	12	試験解説	試験解説：1期学習範囲の理解度フィードバックを受け理解不十分な部分を説明することができる。	講義
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			

31			
32			
33			
34			
35			
36			

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

【分野】専門基礎分野 疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進



【科目】 臨床医学Ⅴ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	佐藤 亨子	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧臨床の際に必要な代表的疾病について基本的な理解を促すとともに、それまでの学習内容を振り返り発展と応用に結びつける。 新たな学習範囲としては、精神科・心療内科疾患および老年医学の概要について解説する。
授業の一般目標 (GIO)	精神科・心療内科・小児科および老年医学領域で扱う代表的な疾患について、各々病気の概要（成り立ち、症状および治療）を理解させる。 鍼灸臨床の基礎となる臨床医学一般のうち、履修済の内容を包括的に復習し、多角的な視点を涵養することで実践的知識へと発展させることを目指す。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	都度参考資料を配付する
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、課題の提出、授業中の小テストおよび学期末に行う期末試験で評価する。

成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	予習課題および復習課題を出すことがあり、成績の評価の際に加点要素とする。
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 臨床医学Ⅴ 2021年度 I部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	【精神科疾患】	神経症（神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害）、統合失調症、うつ病について説明できる。	講義
	2	【心療内科・小児科疾患】	心身症、神経性食欲不振症、過食症および小児科疾患について説明できる。	講義
	3	【老年期疾患】	老年期の身体・心理特性、代表的な疾患・症候およびそれらの予防について説明できる。	講義
	4	消化器疾患の総括-1	口腔、食道疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	5	消化器疾患の総括-2	胃・十二指腸、腸疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	6	呼吸器疾患の総括-1	呼吸器の感染性疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	7	呼吸器疾患の総括-2	閉塞性呼吸器疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	8	循環器疾患の総括-1	心不全の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	9	循環器疾患の総括-2	心臓弁膜症、その他の心疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	10	内分泌・膠原病疾患の総括-1	代表的な内分泌疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	11	試験		試験
	12	試験の解説		試験
2期	13	内分泌・膠原病疾患の総括-2	内分泌・膠原病疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	14	腎・尿路疾患の総括	代表的な腎疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	15	神経系疾患の総括-1	脳血管障害、感染性疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	16	神経系疾患の総括-2	脳、脊髄疾患、基底各変性疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	17	運動器疾患の総括-1	筋疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	18	運動器疾患の総括-2	運動ニューロン、末梢神経疾患の特徴を理解し、説明することができる。	講義
	19	末梢神経疾患、神経痛、頭痛	末梢神経疾患、神経痛および頭痛の分類と特徴を理解し、説明することができる。	講義
	20	外科総論の総括	外科総論の概略を理解し、説明することができる。	講義
	21	麻酔科の総括	麻酔科およびペインクリニックの概略を理解し、説明することができる。	講義
	22	婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患の総括	婦人科疾患、皮膚科疾患および眼科疾患の概略を理解し、説明することができる。	講義
	23	試験		試験

	24	試験の解説	形成的評価におけるフィードバックを受け、試験問題における理解不十分な箇所を挙げるができる。	講義	
3期	25	耳鼻科疾患、精神科・心療内科の総括	耳鼻科疾患、精神科および心療内科疾患の概略を理解し、説明することができる。	講義	
	26	老年期、小児科疾患の総括	老年期疾患および小児科疾患の概略を理解し、説明することができる。	講義	
	27	科目の包括的な復習と発展-1	鍼灸臨床の基礎となる臨床医学一般のうち、履修済の内容を包括的に復習し、多角的な視点を持つことで実践的知識へと発展させることができる。	講義	
	28	科目の包括的な復習と発展-2		講義	
	29	科目の包括的な復習と発展-3		講義	
	30	科目の包括的な復習と発展-4		講義	
	31	科目の包括的な復習と発展-5		講義	
	32	科目の包括的な復習と発展-6		講義	
	33	科目の包括的な復習と発展-7		講義	
	34	科目の包括的な復習と発展-8		講義	
	35	試験			試験
	36	試験の解説		形成的評価におけるフィードバックを受け、試験問題における理解不十分な箇所を挙げるができる。	講義

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

【分野】 専門分野



【科目】 東洋医学概論－2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	林 信治	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	臨床に活かせる東洋医学の授業をおこなう。1 年次・2 年次に学習した東洋医学概論および経絡経穴概論の知識を総合して、東洋医学的な治療方法や弁証論治を臨床に応用することができる授業をおこなう。
授業の一般目標 (GIO)	東洋医学の理念に基づいた病証概念、治療原則、弁証論治を理解し臨床に応用できる。要穴の種類と部位と解剖学的関連を理解する。 1 年次・2 年次に修得した単元を復習し、応用能力を身につける。

【担当教員から】

教科書	新版 東洋医学概論、新版 経絡経穴概論（東洋療法学校協会編）
参考書	経絡演習図（呉竹学園編） 東洋医学概論（東洋療法学校協会編）

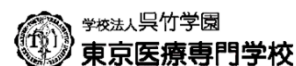
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書・参考書を利用して予習・復習を行う。
履修にあたっての留意点	難解な漢字・語句がある場合は、漢字辞典・国語辞典などを用いて調べるとよい。スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】東洋医学概論－2 2021年度 I部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	経絡弁証：是動病と所生病 十二経脈の病証①	是動病と所生病について概要を述べることができる。正経の流注と弁証を簡単に述べることができる。	講義
	2	経絡弁証：十二経脈の病証②	正経の流注と弁証を簡単に述べることができる。	講義
	3	経絡弁証：十二経脈の病証③ 奇経八脈病証	奇経の弁証を簡単に述べることができる。経筋の概要をのべることができる。	講義
	4	経絡弁証：経筋病 六経病 三陰三陽病(六病位)	六経病の意義を述べることができる。六経病の順と主要症状を述べることができる。	講義
	5	証のたて方 治療論：養生法・治療原則	東洋医学における証のたて方・養生・治療原則について概要を述べることができる。	講義
	6	治療法 九鍼・刺法 (九刺)	古代九鍼の名称と利用法・各刺法の名称・対象・刺法を述べることができる。	講義
	7	刺法 (十二刺・五刺・三刺)	各刺法について、名称・対象・刺法を述べることができる。	講義
	8	標本・主客 論治(治則・八法) 禁忌・補瀉法(用鍼・治法)	標本・主客・論治の中の各治則を簡単に述べることができる。	講義
	9	補瀉法(取穴の補瀉) 難経六十九難(臟)	難経六十九難を利用して、臟の虚実の治療穴を決めることができる。	講義
	10	補瀉法(取穴の補瀉) 難経六十九難(腑)	難経六十九難を利用して、腑の虚実の治療穴を決めることができる。	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説 補瀉法(取穴の補瀉) 難経七十五難	解説により 1期の総復習を行う。難経七十五難による補瀉法を理解し、治療穴を決めることができる。	講義
	13	選穴の原則	選穴の原則を理解できる。	講義
	14	湯液の特徴	生薬の役割・生薬の気味・八法・瞑眩などを簡単に理解する。	講義
	15	四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴の意義の復習	四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴について経穴を覚えて役割を簡単に説明することができる。	講義
	16	陰陽論の復習 五行説の復習	陰陽論五行説について説明することができる。	講義
	17	気血津液の復習・奇穴の復習	気血津液について説明することができる。奇穴の主治と部位を理解し説明できる。	講義

2期	18	蔵象の復習①・五要穴・五行穴・五俞穴	蔵象について説明することができる。五要穴・五行穴・五俞穴について理解し説明できる。	講義
	19	蔵象の復習②	蔵象について 臓腑・奇恒の腑について、複数のかかわりの関係および病理を簡単に説明することができる。	講義
	20	弁証の復習：八綱・気血津液・衛気営血・その他の	八綱弁証・気血津液弁証・衛気営血弁証などの弁証を各々理解し簡単に述べることができる。	講義
	21	病因の復習	病因の分類と病証とのかかわりについて簡単に説明することができる	講義
	22	病証と四診法の復習	主な病証と四診法で得られる情報を結びつけることができる。（舌診・脈診・腹診）	講義
	23	試験		講義
	24	試験解説	解説により、2期の復習を総復習を行う。	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

【分野】 専門分野



【科目】 経絡経穴概論－2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	岡田 智和	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	臨床経験を活かした実践的臨床的なつながりをも経絡経穴の学習をおこなう。1 年次・2 年次に学習した経絡経穴概論の知識を総合して臨床能力に応用できる知識を身につける。
------	--

授業の一般目標 (GIO)	各経脈の取穴部位の確認とその解剖部位の関連性を復習し、総合的な理解と解釈ができるようになる。 <ul style="list-style-type: none"> ・十四経脈の取穴をすることができる。 ・十四経脈の取穴部位を解剖学的に理解できる。 ・要穴の理解と治療へ応用することができる。
------------------	---

【担当教員から】	
教科書	新版東洋医学概論 新版経絡経穴概論
参考書	
成績評価基準	評価の観点は1) 授業の理解と表現 2) 知識の浸透度と理解度とし、学期末に行う期末試験で評価する。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	授業後の復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	難解な漢字、語句がある場合は、漢字辞典・国語辞典などを用いて調べるとよい。 スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

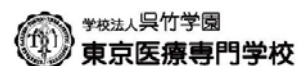
【授業計画】経絡経穴概論ー2 2021年度 I部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	要穴 1	原穴・郄穴・絡穴・募穴・背部俞穴・下合穴の経穴と部位を言うことができる。	講義
	2	要穴 2	井穴・榮穴・兪穴・経穴・合穴とその部位を言うことができる。	講義
	3	要穴 3・奇穴	四総穴・八会穴・八脈交会穴と奇穴の部位を言うことができる。	講義
	4	上肢陰経の経穴	上肢陰経の経穴と筋・神経・血管との関係を理解し部位を説明できる。	講義
	5	上肢陽経の経穴	上肢陽経の経穴と筋・神経・血管との関係を理解し部位を説明できる。	講義
	6	下肢陰経の経穴	下肢陰経の経穴と筋・神経・血管との関係を理解し部位を説明できる。	講義
	7	下肢陽経の経穴	下肢陽経の経穴と筋・神経・血管との関係を理解し部位を説明できる。	講義
	8	頭頸部・顔面部・胸腹部の経穴	頭頸部・顔面部・胸腹部の経穴と部位を言うことができる。胸腹部の経穴の横並びを言うことができる。	講義
	9	背腰部の経穴	背腰部の経穴の横並びを理解する。背腰部の筋・神経との関係を理解し部位を説明できる。	講義
	10	正経十二経脈・奇経八脈の流注	正経十二経脈と奇経八脈の流注について説明できる。	講義
	11	試験		試験
	12	総復習・まとめ	総復習、まとめをおこなう。	講義
	13			

2期	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

【分野】

専門分野



【科目】

東洋医学の応用-2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	渡辺 亜矢	
単位数	単位		実務経験	
開講学期	1学期・2学期・3学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	1年次、2年次に学んだ解剖学、生理学、あはき理論の知識を、臨床施術に応用できる力を身につける。また、患者に対する的確な説明ができる知識を習得する。
------	---

授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ あはき治療について基本的知識を確認する。 ・ あはき治療に関連する治効理論を理解する。 ・ あはき治療に必要な、症候からの臨床応用への道筋を理解する。
------------------	---

【担当教員から】	
教科書	あん摩マッサージ指圧理論、はりきゅう理論、臨床医学総論：学校協会編
参考書	鍼灸臨床最新科学(川喜田健司、矢野忠編)医歯薬出版、図解 鍼灸療法技術ガイド(矢野忠編)文光堂
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用により、総合的に評価する。
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	教科書とプリントを中心に授業を行います。授業の理解には出席が必要です。欠席をしないようにしてください。

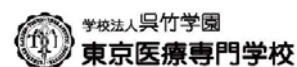
【授業計画】 東洋医学の応用—2 2021年度 I部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	あはき治効理論 (ゲートコントロール説)	ゲートコントロール説について説明できる。	講義
	2	あはきの一般治効理論 (自律神経の概要)	自律神経の概要について説明できる。	講義
	3	あはきの一般治効理論 (鍼の血流に及ぼす影響)	軸索反射や自律神経反射による鍼灸の治効機序について説明できる。	講義
	4	あはきの一般治効理論 (灸療法と炎症)	灸療法による炎症とその治療的作用について説明できる。	講義
	5	あはきの一般治効理論 (鍼灸治療による生体防御機構に及ぼす影響)	灸療法による生体防御機構に及ぼす影響について説明できる。	試験
	6	臨床医学総論の復習 (診察の方法・バイタルサイン)	基本的診察に必要な知識を挙げることができる。バイタルサインについて説明できる。	講義
	7	臨床医学総論の復習 (神経系の診察)	感覚検査、反射検査について具体的に説明できる。	講義
	8	臨床医学総論の復習 (神経系の診察)	感覚検査、反射検査について具体的に説明できる。	講義
	9	臨床医学総論の復習 (運動機能検査)	運動機能の検査について説明できる。	講義
	10	あん摩マッサージ指圧と東洋医学(古法あん摩・導引口訣鈔・按腹図解)	「按摩手引」「導引口訣鈔」「按腹図解」に記載されている、主なあん摩について説明できる。	講義
	11	試験	1期試験	試験
	12	試験解説	1期試験後のフィードバックをおこない、理解を深める。	講義
13	あはき治療におけるリスク管理の復習	2年次に学習した感染症対策、適応と禁忌について説明できる。	講義	

2期	14	あはき治効理論の復習（痛覚の伝導路）	2年次に学習した鎮痛の機序について説明できる。	講義
	15	あはき治効理論の復習（鎮痛）	2年次に学習した鍼灸の自律神経に及ぼす影響について説明できる。	講義
	16	あはき治効理論の復習（一般治効理論）	2年次に学習した鍼灸の生体防御機構に及ぼす影響について説明できる。	講義
	17	あはき治効理論の復習（関連学説）	2年次に学習した関連学説について説明できる。	講義
	18	臨床医学総論の復習（運動機能検査）	徒手検査について、具体的に説明できる。	講義
	19	臨床医学総論の復習（全身の診察）	全身の診察について、具体例を挙げて説明できる。	講義
	20	臨床医学総論の復習（局所の診察）	所の診察について、具体例を挙げて説明できる。	講義
	21	臨床医学総論の復習（臨床検査）	診断に必要な臨床検査を挙げることができる。	講義
	22	臨床医学総論の復習（治療学）	あはき師に必要な治療学の知識を挙げることができる。	講義
	23	復習（総まとめ）	3年の学習ポイントを復習し、問題演習を通じて理解することができる。	講義
3期	24	復習（総まとめ）	3年の学習ポイントを復習し、問題演習を通じて理解することができる。	講義
	25	復習（あまし施術の基本）	あん摩、マッサージ、指圧の基本手技を挙げて説明できる。	講義
	26	復習（あまし施術の応用）	あまし施術の応用分野について、例を挙げて説明できる。	講義
	27	復習（はりきゅう治療の基本）	鍼灸の用具の特徴、基本手技について説明できる。	講義
	28	復習（はりきゅう治療の応用）	特殊鍼法、刺激量、感受性について説明できる。	講義
	29	復習（関連学説）	鍼灸施術に必要な関連学説について説明できる。	講義
	30	治療への応用（主観的情報・医療面接）	あはき治療に必要な情報を収集するために必要な知識を確認できる。	講義
	31	治療への応用（客観的情報）	あはき治療に必要な客観的情報を説明できる。	講義
	32	治療への応用（病態生理・評価・リスク管理）	あはき治療に必要なアセスメントが説明できる。リスク管理を説明できる。	講義
	33	治療への応用（治療プラン）	あはき治療に必要な知識もとに具体的な治療計画を作成できる。	講義
	34	治療への応用（治効理論・関連学説）	あはき治療の機序を理解し、説明できる。	講義
	35	復習（総まとめ）	3年の学習ポイントを復習し、問題演習を通じて理解することができる。	講義
	36	復習（総まとめ）	3年の学習ポイントを復習し、問題演習を通じて理解することができる。	講義

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

【分野】 専門分野

【科目】 東洋医学臨床論Ⅲ



【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	町田しのぶ	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	鍼灸臨床において頻繁に遭遇する主要症候について、現代医学的に病態把握し、鍼灸適不適の鑑別が出来る知識を習得する。その上で、現代医学・東洋医学それぞれの考え方に基づく病態把握・治療方針・具体的な治療方法を理解し、説明出来ることを目標とした授業を行う。
授業の一般目標 (GIO)	あはき臨床における主要症候に対して病態把握や適不適の判断ができる知識を習得する。あはき臨床における現代医学・東洋医学それぞれの考えに基づく病態把握や治療方針や具体的な治療方法を理解し、説明が出来る。

【担当教員から】

教科書	東洋医学臨床論 〈はりきゅう編〉 (学校協会編) 東洋医学臨床論 〈あん摩マッサージ指圧編〉 (学校協会編)
参考書	新版 東洋医学概論、新版 経絡経穴概論、臨床医学各論、臨床医学総論、リハビリテーション医学、はりきゅう理論、あん摩マッサージ指圧理論
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	授業の復習を行う。
履修にあたっての留意点	スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

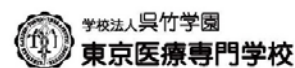
【授業計画】 東洋医学臨床論Ⅲ 2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1 年	1	血圧異常 (高血圧症・低血圧症)	血圧異常について鑑別と治療法が説明できる。	講義
	2	食欲不振	食欲不振についての鑑別と治療法が説明できる。	講義
	3	肥満	肥満についての鑑別と治療法が説明できる。	講義
	4	発熱	発熱についての鑑別と治療法が説明できる。	講義
	5	のぼせと冷え	のぼせと冷えについての鑑別と治療法が説明できる。	講義
	6	不眠	不眠について鑑別と治療法が説明できる。	講義

1期	7	疲労と倦怠	疲労と倦怠についての鑑別と治療法が説明できる。	講義
	8	発疹	発疹についての鑑別と治療法が説明できる。	講義
	9	小児の症状	小児の症状についての鑑別と治療法が説明できる。	講義
	10	老年医学	老年医学におけるあはき治療についての考え方と治療法が説明できる。	講義
	11	試験	1期試験	試験
	12	試験解説	1期学習範囲の理解度フィードバックを受け、理解不十分な部分を説明することができる。	講義
2期	13	頸肩腕痛の復習	頸肩腕痛の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	14	上肢痛の復習	上肢痛の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	15	肩関節痛の復習	肩関節痛の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	16	腰下肢痛の復習	腰下肢痛の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	17	膝関節痛の復習	膝関節痛の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	18	頭痛の復習	頭痛の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	19	顔面痛・歯痛の復習	顔面痛・歯痛の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	20	顔面麻痺の復習	顔面麻痺の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	21	眼精疲労・鼻閉鼻汁・脱毛の復習	眼精疲労・鼻閉鼻汁・脱毛の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	22	めまい・耳鳴りと難聴の復習	めまい・耳鳴りと難聴の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	23	咳嗽・喘息の復習	咳嗽・喘息の復習と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	24	胸痛の復習	胸痛の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
3期	25	腹痛・悪心嘔吐の復習	腹痛・悪心嘔吐の復習	講義
	26	便秘と下痢の復習	便秘と下痢の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	27	月経異常の復習	月経異常の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	28	排尿障害・勃起障害の復習	排尿障害・勃起障害の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	29	運動麻痺の復習	運動麻痺の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	30	スポーツ医学の復習	主なスポーツ障害の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	31	血圧異常の復習	血圧異常の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	32	食欲不振・肥満の復習	食欲不振・肥満の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	33	疲労と倦怠・不眠の復習	疲労と倦怠・不眠の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	34	のぼせと冷え・発熱の復習	のぼせと冷え・発熱の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	35	小児の疾患の復習	小児の疾患の鑑別と治療法について十分な説明が出来る。	講義
	36	老年医学の復習	老年医学におけるあはき治療についての考え方と治療法について十分な説明ができる。	講義

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

【分野】専門分野 社会あん摩マッサージ指圧学・社会はり学・社会きゅう学



【科目】 社会あはき学

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	和田 真紀子
------	------	------	--------

担当教員

単位数	2 単位	担当教員	実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	医療に従事する職種に関する基本的な規定、また、鍼灸師が免許を有することで担う義務と責任を学習する。 医療を担う一員として、人類にとって医療とは何か、そして医の倫理とは何か、その原点を常に広い視野に立って深く洞察できる人間性・人格を養う。 人口問題から疫学、感染症、生活習慣病、さらには環境問題等の現状と問題点を解説するとともに、健康保持のための個人レベル、社会レベルでの方策について理解する。
授業の一般目標 (GIO)	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として、社会の中で活動していく上で必要な法律上の規定を知る。 医療を担う一員として、人類にとって医療とは何か、そして医の倫理とは何か、その原点を常に広い視野に立って深く洞察できる人間性・人格を養う。 疫学・統計を学ぶことで、日本の保健衛生の現状を知る。

【担当教員から】

教科書	「関係法規」(学校協会編) 「衛生学・公衆衛生学」(学校協会編)
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 社会あはき学 2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	法の意義、法の体系 免許・試験について	法の種類について説明することができる。 免許証書換・再交付試験(受験手続き、試験の施行)について説明できる。	講義
	2	業務について	業務の独占と範囲、施術に関する注意、開設届、構造設備基準、知事の監督、出張・滞在業務について理解することができる。	講義
	3			
	4	広告・罰則について	業務の独占と範囲、施術に関する注意、施術所の名称制限、広告の制限、罰金(施術者、施術所)、両罰規定について説明できる。	講義

	5	医療法・医師法、その他の医事・福祉法規	病院、診療所、助産所の定義、医師の仕事、薬事関係法規、生活保護法、児童福祉法、障害者自立支援法、老人福祉法、健康保険法、介護保険法等の施行について説明できる。	講義
	6	疫学	疫学の概念と意義を説明することができる。疫学調査の研究の段階と実例を列挙できる。	講義
	7	統計	保健統計の意義、主要な保健統計指標を列挙し、近年の傾向を述べることができる。	講義
	8			
	9	現代医学と医療	現代医学の課題・医療制度(近世医学、終末期医療、先進医療、臓器移植、国民医療費)を説明できる。	講義
	10	医療従事者の倫理	医療倫理(ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、患者の権利宣言、インフォームドコンセント、アドヒアランス、バイオエシックス、Q.O.L.、S.O.L.)について説	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	形式的評価によるフィードバックを受け、理解不十分であった項目について、正しく理解	講義
2期	13	健康 (健康管理)	疾病予防(一次～三次予防)について、特徴と具体例を説明することができる。	講義
	14	健康 (衛生行政)	わが国の医療保険制度の特徴を述べるができる。保険者と被保険者を類別できる。	講義
	15	ライフスタイルと健康	栄養素の過剰・欠乏疾患を列挙することができる。細菌性・毒素性食中毒について説明でき	講義
	16	日常生活環境	物理学的環境要因について列挙し、それによる疾患について説明できる。	講義
	17	環境問題	化学的環境要因について列挙し、それによる疾患について説明できる。	講義
	18	公害、地球規模の環境問題	内分泌攪乱化学物質、オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨の原因物質と症状について説明	講義
	19	産業衛生	産業衛生関係法規、業務上疾病で多い疾患について列挙することができる。	講義
	20	精神保健	精神障害者に対する入院形式、また、入院・外来患者で多い疾患を列記することができる。	講義
	21	母子保健	母子保健における用語の定義(リプロダクティブヘルス含む)、死亡統計について類	講義
	22	感染症	病原微生物とそれによる疾患を類別できる。	講義
	23	感染症	病原微生物と感染経路を組み合わせることがで	講義
	24	消毒	物理的消毒法、化学的消毒法の消毒効果について説明することができる。	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門分野 実習

【科目】 あん摩マッサージ指圧臨床実技

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	上利文子	
単位数	2 単位		実務経験	長年の実務経験あり
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	1・2年次の按摩・指圧・マッサージの基本手技の確認・統合し、臨床現場に即したあん摩マッサージ指圧治療の組み立てを習得することを目的とする。また応用手技としてオイルマッサージの各手技を学習する。
授業の一般目標 (GIO)	応用手技を有効かつ安全に行う動作を身につける。 一定時間内に施術出来るように練習。相手の状態に適した手技、刺激量を習得する。

【担当教員から】

教科書	『按摩・マッサージ・指圧 実技編』 学校法人 呉竹学園編
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識・技術の修得 施術の適否を的確に判断し、適切に対応できる。
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	繰り返し実施することで技術向上するため、時間を空けず復習することを勧めます。

【授業計画】 あん摩マッサージ指圧臨床実技 2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
----	----	------	-------------	------

前期	1	全身疲労に対する施術	決められた時間内に全身疲労に対する病態把握、適不適の判別、あまし治療を行える。	実技	
	2	全身疲労に対する施術		実技	
	3	頸肩腕痛に対する施術	決められた時間内に頸肩腕痛に対する病態把握、適不適の判別、あまし治療を行える。	実技	
	4	頸肩腕痛に対する施術		実技	
	5	腰下肢痛に対する施術	決められた時間内に腰下肢痛に対する病態把握、適不適の判別、あまし治療を行える。	実技	
	6	腰下肢痛に対する施術		実技	
	7	肩関節痛に対する施術	決められた時間内に肩関節痛に対する病態把握、適不適の判別、あまし治療を行える。	実技	
	8	肩関節痛に対する施術		実技	
	9	膝関節痛に対する施術	決められた時間内に膝関節痛に対する病態把握、適不適の判別、あまし治療を行える。	実技	
	10	膝関節痛に対する施術		実技	
	11	按摩の基本手技の復習	按摩の基本手技を的確に行うことができ運動器疾患の治療を組み立て、実施できる。	実技	
	12	マッサージの基本手技の復習	マッサージの基本手技を的確に行うことができ運動器疾患の治療を組み立て、実施できる	実技	
	13	指圧の基本手技の復習	指圧の基本手技を的確に行うことができ運動器疾患の治療を組み立て、実施できる	実技	
	14	まとめと復習	臨床実技・基礎実技・触診全体の振り返り	実技	
	15	試験	臨床実技・基礎実技・触診の評価	実技	
	16	まとめと復習	試験後のフィードバック/臨床実技・基礎実技・触診全体の振り返り	実技	
	17	応用実技 オイルマッサージ	オイルマッサージの基本手技について学ぶ	実技	
	18	応用実技 オイルマッサージ		実技	
後期	19	応用実技 オイルマッサージ 下肢	オイルマッサージの基本手技を学び、施術者に負担のない身体の使い方を身につけ、正確に実践できる。 身体各部位の施術手順を覚え、各手技や動作を正しく行える。	実技	
	20	応用実技 オイルマッサージ 下肢		実技	
	21	応用実技 オイルマッサージ 上肢		実技	
	22	応用実技 オイルマッサージ 上肢		実技	
	23	応用実技 オイルマッサージ 背部		実技	
	24	応用実技 オイルマッサージ 背部		実技	
	25	応用実技 オイルマッサージ 胸部		実技	
	26	応用実技 オイルマッサージ 胸部		実技	
	27	応用実技 オイルマッサージ 腹部		実技	
	28	応用実技 オイルマッサージ 腹部		実技	
	29	応用実技 オイルマッサージ 顔面		実技	
	30	応用実技 オイルマッサージ 顔面		実技	
	31	応用実技 オイルマッサージ 臨床実践		マッサージを用いた治療の適不適の判別、治療の組み立てと実施ができる。	実技
	32	応用実技 オイルマッサージ 臨床実践			実技
	33	まとめと復習		按摩・マッサージ・指圧・応用手技を用いて相手の状態に適した手技、刺激量を選択し、治療できる。	実技
	34	まとめと復習			実技
	35	まとめと復習	実技		
	36	まとめと復習	実技		

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう応用実技 I

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	齊藤 隆夫	
単位数	2 単位		実務経験	長年の実務経験あり
開講学期	前・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	2年の臨床実技で行われた臨床で良く遭遇する4疾患に対する治療を深めるために、代表的な筋を対象にパルス治療器を用いて、正確にアプローチできるよう練習を行う。さらに応用実技としてスポーツ鍼灸、特殊鍼法を理解し実施できる能力を養う。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> 健康医学、産業医学について説明、鍼灸治療を行う事ができる。 整形外科的な代表4疾患に対する治療ができる。 代表的な筋を対象にパルス通電療法ができる。 スポーツ傷害の対処法、鍼灸治療ができる。 特殊鍼法が実施できる。
授業の到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 健康医学、産業医学について説明および鍼灸治療を行う事ができる。 代表的な筋に対して、正確な刺鍼ができる。 鍼通電療法を正確に行う事ができる。 スポーツ傷害への対象法として、RICE処置ができる。 各スポーツ傷害について説明および鍼灸治療ができる。 特殊な鍼灸治療（灸頭鍼、小児鍼など）について説明および実施ができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業中における態度、実技習得度 2) 期末試験 期末試験により習得度を確認するとともに、普段の授業に於いて医療人としての言動、態度、衛生管理なども加味し評価する。
成績評価方法	学期末試験 授業中の態度、習得度、出席率
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく
オフィスアワー	

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
	1	1) 分野別鍼灸療法 (1) 健康医学分野	健康医学の概要を説明できる。健康管理・養生法として鍼灸を行う事ができる。	実習
	2	1) 分野別鍼灸療法 (1) 健康医学分野	健康医学の概要を説明できる。健康管理・養生法として鍼灸を行う事ができる。	実習

前期	3	1) 分野別鍼灸療法 (2) 産業医学分野	産業医学における鍼灸治療ができる。 (労働災害(腰痛、頸肩腕痛など))	実習	
	4	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	下肢の筋に対するパルス治療ができる 前脛骨筋、腓骨筋、長趾伸筋	実習	
	5	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	下肢の筋に対するパルス治療ができる。 半腱様筋、腓腹筋、長趾屈筋	実習	
	6	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	下肢の筋に対するパルス治療ができる。 大腿四頭筋、縫工筋	実習	
	7	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	上肢の筋に対するパルス治療ができる。 腕橈骨筋、総指伸筋、尺側手根伸筋	実習	
	8	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	上肢の筋に対するパルス治療ができる。 長母指伸筋、長母指外転筋、円回内筋	実習	
	9	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	上肢の筋に対するパルス治療ができる。 上腕二頭筋、上腕三頭筋	実習	
	10	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	腰背殿部の筋に対するパルス治療ができる。 腰方形筋、脊柱起立筋	実習	
	11	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	腰背殿部の筋に対するパルス治療ができる。 梨状筋、殿筋	実習	
	12	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	腰背殿部の筋に対するパルス治療ができる。 腰方形筋、脊柱起立筋	実習	
	13	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	肩背部の筋に対するパルス治療ができる。 頭板状筋、頭半棘筋	実習	
	14	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	肩背部の筋に対するパルス治療ができる。 僧帽筋、菱形筋	実習	
	15	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	肩関節周囲筋に対するパルス治療ができる。 棘下筋、棘上筋、小円筋	実習	
	16	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	肩関節周囲筋に対するパルス治療ができる。 棘下筋、棘上筋、小円筋	実習	
	17	前期試験：実技総合試験①	試験項目に即した鍼灸施術ができる。	試験	
	18	前期試験：実技総合試験①	試験項目に即した鍼灸施術ができる。	試験	
	後期	19	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害に対するRICE処置の説明および実施ができる	実習
		20	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における腰痛の説明および治療ができる	実習
21		1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における肩関節痛の説明および治療ができる	実習	
22		1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における肘関節痛の説明および治療ができる	実習	
23		1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における膝関節痛の説明および治療ができる	実習	
24		1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における足関節痛の説明および治療ができる	実習	
25		1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における下肢痛の説明および治療ができる	実習	
26		1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	肉離れ、コンパートメント症候群の説明および治療ができる	実習	
27		1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	ストレッチ、操体法について説明および実施ができる	実習	
28		3) 鍼灸各種治療体系概要 (1) 灸頭鍼法 1	灸頭鍼について説明および実施ができる	実習	
29		3) 鍼灸各種治療体系概要 (2) 隔物灸法	隔物灸について説明および実施ができる	実習	
30		3) 鍼灸各種治療体系概要 (3) 良導絡	良導絡治療について説明および実施ができる	実習	
31		3) 鍼灸各種治療体系概要 (4) 耳鍼法・円皮鍼	耳鍼法について説明および実施ができる	実習	
32		3) 鍼灸各種治療体系概要 (5) 皮内鍼法	皮内鍼法について説明および実施ができる	実習	
33		3) 鍼灸各種治療体系概要 (6) 小児鍼 1	小児鍼法について説明および実施ができる	実習	
34		3) 鍼灸各種治療体系概要 (7) 吸角療法	吸角療法について説明および実施ができる	実習	
		35	まとめ		
		36	まとめ		

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう応用実技Ⅱ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	渡邊 茂隆	
単位数	2 単位		実務経験	長年の実務経験あり
開講学期	前・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・治療経験を活かし、より臨床に即した実技授業を展開する。 ・2年の臨床実技でも重視し行われた、临床上遭遇する頻度の高い整形外科症状に対する鍼灸治療を実践的に行う。 ・治療各論として、諸症状における東西両医学を用いた鍼灸臨床の実際を行う。 ・実践的に学生同士で相手の症状に対して、一連の鍼灸施術を行う。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科的に代表的な4大症状に対する鍼灸治療ができる。 ・一般臨床で遭遇する可能性のある内科系症状や諸症状について鍼灸治療を行うことができる。 ・患者をイメージし一連の治療を組み立て、行うことができる。
授業の到達目標 (SB0s)	<ul style="list-style-type: none"> ・遭遇する頻度の高い整形外科症状に対して、適切な医療面接、身体診察、病態把握、鍼灸治療の立案および実践を行うことができる。 ・一般臨床で遭遇する可能性のある諸症状について、鍼灸治療の適応・不適応の鑑別ができる。また、適応症状に対して、適切な鍼灸治療を行うことができる。 ・モデル患者に対して、医療面接、身体診察、病態把握、鍼灸治療の立案および一連の鍼灸治療を行うことができる

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	評価の観点は 1) 授業中における態度、実技習得度 2) 期末試験 期末試験により習得度を確認するとともに、普段の授業に於いて医療人としての言動、態度、衛生管理なども加味し評価する。
成績評価方法	学期末試験 授業中の態度、習得度、出席率
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう応用実技Ⅱ 2021年度 I 部 鍼灸マッサージ科

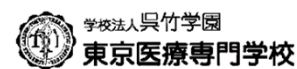
学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
----	----	------	-------------	------

前期	1	1)現代医学的な鍼灸療法 (1)代表4疾患の治療 復習 1.腰下肢痛 2.膝関節痛	頸肩背部痛・腰下肢痛について適切な鍼灸治療ができる	実技
	2	1)現代医学的な鍼灸療法 (1)代表4疾患の治療 復習 3.頸肩腕痛 4.肩関節痛	肩関節痛・膝関節痛について適切な鍼灸治療ができる	実技
	3	1)現代医学的な鍼灸療法 (1)代表4疾患の治療 復習 1.腰下肢痛 2.膝関節痛 ロールプレイ	ロールモデルを用いて、適切な医療面接、身体診察ができ、それに基づき適切な病態把握・鍼灸治療計画の立案を考える事ができる	実技
	4	1)現代医学的な鍼灸療法 (1)代表4疾患の治療 復習 3.頸肩腕痛 4.肩関節痛 ロールプレイ		実技
	5	1)現代医学的な鍼灸治療 (2)代表4疾患の治療 各論 2.腰下肢痛 ①腰痛	腰痛について適切な鍼灸治療ができる	実技
	6	1)現代医学的な鍼灸治療 (2)代表4疾患の治療 各論 2.腰下肢痛②下肢神経障害	腰部神経根症について適切な鍼灸治療ができる	実技
	7	1)現代医学的な鍼灸治療 (2)代表4疾患の治療 各論 4.膝関節痛 ①変形性膝関節症等	膝痛の病態を理解し、適切な鍼灸治療ができる、生活指導ができる	実技
	8	1)現代医学的な鍼灸治療 (2)代表4疾患の治療 各論 1.頸肩腕痛 ①肩こり	肩こりについて適切な鍼灸治療ができる	実技
	9	1)現代医学的な鍼灸治療 (2)代表4疾患の治療 各論 1.頸肩腕痛②頸椎症性神経根症③胸郭出口症候群	頸椎症性神経根症・胸郭出口症候群について適切な鍼灸治療ができる	実技
	10	1)現代医学的な鍼灸治療 (2)代表4疾患の治療 各論 1.頸肩腕痛④上肢の絞扼性末梢神経障害	上肢の絞扼性末梢神経障害について適切な鍼灸治療ができる	実技
	11	1)現代医学的な鍼灸治療 (2)代表4疾患の治療 各論 1.頸肩腕痛⑤上肢症状に対する応用臨床	上肢症状に対する応用臨床を学び、実践できる	実技
	12	1)現代医学的な鍼灸治療 (2)代表4疾患の治療 各論 3.肩関節痛 ①肩関節周囲炎等	肩痛の病態を理解し、適切な鍼灸治療ができる、生活指導ができる	実技
	13	1)現代医学的な鍼灸療法 (1)代表4症状の治療 および施灸の復習	(1)代表4症状の医療面接・身体診察(徒手検査法)を適切にできる 適切な鍼灸治療ができる	実技
	14	1)現代医学的な鍼灸療法 (1)代表4症状の治療 および施灸の復習		実技
	15	1)現代医学的な鍼灸療法 (1)代表4症状の治療 および施灸の復習		実技
	16	前期試験：実技総合試験②	試験項目に即した鍼灸治療ができる	試験
	17	前期試験：実技総合試験②	試験項目に即した鍼灸治療ができる	実技
	18	まとめ	試験後の振り返り	実技
後期	19	2)学生同士でロールプレイ シナリオなし(相手の症状)	実臨床をイメージし一人で一連の鍼灸地長を行うことができる	実技
	20	2)学生同士でロールプレイ シナリオなし(相手の症状)		実技
	21	3)鍼灸治療 各論 (1)頭痛	頭痛の鍼灸治療ができる	実技
	22	3)鍼灸治療 各論 (2)顔面麻痺	顔面麻痺の鍼灸治療ができる	実技
	23	3)鍼灸治療 各論 (3)耳鳴り・難聴・めまい	耳鳴り・難聴・めまいの鍼灸治療ができる	実技
	24	3)鍼灸治療 各論 (4)食欲不振・疲労・倦怠感	食欲不振・疲労・倦怠感の鍼灸治療ができる	実技
	25	3)鍼灸治療 各論 (5)月経異常(婦人科症状)	月経異常(婦人科症状)の鍼灸治療ができる	実技
	26	3)鍼灸治療 各論 (6)不眠・のぼせ・冷え	不眠・のぼせ・冷えの鍼灸治療ができる	実技
	27	3)鍼灸治療 各論 (7)産業医学	産業領域で求められることを知り、鍼灸治療ができる	実技
	28	3)鍼灸治療 各論 (8)老年医療	老年医療の特徴を説明でき、治療ができる	実技
	29	1)現代医学的な鍼灸治療 学生同士でロールプレイ シナリオなし(相手の症状)	一人で一連の鍼灸治療を行うことができる	試験
	30	1)現代医学的な鍼灸治療 学生同士でロールプレイ シナリオなし(相手の症状)		実技
	31	1)現代医学的な鍼灸治療 学生同士でロールプレイ シナリオなし(相手の症状)	一人で一連の鍼灸治療を行うことができる	実技
	32	1)現代医学的な鍼灸治療 学生同士でロールプレイ シナリオなし(相手の症状)		実技
	33	1)現代医学的な鍼灸治療 学生同士でロールプレイ シナリオなし(相手の症状)	一人で一連の鍼灸治療を行うことができる	実技
	34	1)現代医学的な鍼灸治療 学生同士でロールプレイ シナリオなし(相手の症状)		実技

35	まとめ		実技
36	まとめ		実技

2021年度 鍼灸マッサージ科

【分野】 専門分野 臨床実習



【科目】 臨床実習Ⅲ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	前後期	授業形態・回数	講義・演習	24回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習Ⅲでは数人のグループで鍼灸施術を行い、臨床実践を通して鍼灸師としての必要な知識、技術、コミュニケーション能力などを培う実習となります。 ・また、外部臨床実習として、連日同一あはき施術所にて実習を行い、実習指導者やスタッフ、患者とのコミュニケーション能力を培うと共に、施術見学および補助に携わることで、あはき師としての責任感を養う事を目的に行います。また、将来の就職を念頭に業務の一端を担う事で、現場で求められている治療以外の仕事の重要性を認識することも目的としています。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次の座学や実技で学習する医療面接、身体診察法について、附属施術所にて患者に対し実践することで、授業では学習しにくい医療面接における傾聴や共感、質問法による病態の絞り込み、信頼関係を構築するコミュニケーション能力、適切な身体診察法の選択や実施の難しさと重要性を理解する。 ・病態の推定や治療を考える事で、診察での情報収集の大切さや目的を理解させる。 ・SOAPに沿った診療録 (POMR) を記載することで治療の振り返りを行い、気づきを促し今後の能力向上に努める。 ・同一患者を連続で施術し経過を追うことで、治療の有効性などを検証し、症例報告書として纏める力をつける。 ・学内・学外にてあはき施術所の業務体験を行う事で治療以外の業務の大切さを理解する。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	<p>評価の観点は</p> <p>1) 実習中における態度、実技習得度、課題の内容</p>
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学内：課題レポート（実習記録）による評価 ・学外：臨地見学実習レポート（デイリーノート、振り返りノート） 実習指導者による評価表 <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>(1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	

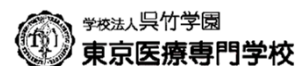
履修にあたっての留意点 必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 臨床実習Ⅲ 2021年度 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態	
	1	臨床基礎実習 ・ 臨床実習前の説明	・ 症例報告書を作成する方法を理解できる ・ 4疾患の医療面接、徒手検査法ができる	講義 実習	
	2	・ 医療面接、徒手検査法などの復習			
	3	臨床実習4-1 2~3人の班毎に、同一の患者を4回連続で	・ 適切に医療面接ができる ・ 適切に身体所見をとる事ができる ・ 適切に病態を推定する事ができる ・ 適切に治療を考える事ができる ・ 適切に刺鍼・施灸ができる ・ 適切に生活指導などができる ・ 適切に診療録を記載できる ※この後、症例報告書を作成できる	実習	
	4	鍼灸施術を担当する			
	5	臨床実習4-2 2~3人の班毎に、同一の患者を4回連続で		実習	
	6	鍼灸施術を担当する			
	7	臨床実習4-3 2~3人の班毎に、同一の患者を4回連続で		実習	
	8	鍼灸施術を担当する			
	9	臨床実習4-3 2~3人の班毎に、同一の患者を4回連続で		実習	
	10	鍼灸施術を担当する			
	11	外部臨床実習3-1 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う		・ 時間管理ができる ・ 実習指導者、スタッフ、患者さんと良好なコミュニケーションをとることができる ・ 実習指導者の指示通り、行動できる ・ 1日の業務を理解し、遂行することができる ・ 1日の実習についてまとめ、レポートを記載できる	実習
	12				
	13				
	14				
	15				
	16	外部臨床実習3-2 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う	・ 時間管理ができる ・ 実習指導者、スタッフ、患者さんと良好なコミュニケーションをとることができる ・ 実習指導者の指示通り、行動できる ・ 1日の業務を理解し、遂行することができる ・ 1日の実習についてまとめ、レポートを記載できる	実習	
	17				
	18				
	19				
	20				
	21	外部臨床実習3-3 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う	・ 時間管理ができる ・ 実習指導者、スタッフ、患者さんと良好なコミュニケーションをとることができる ・ 実習指導者の指示通り、行動できる ・ 1日の業務を理解し、遂行することができる ・ 1日の実習についてまとめ、レポートを記載できる	実習	
	22				
	23				
	24				
	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				

32			
33			
34			
35			
36			

2021年度 I部 鍼灸マッサージ科



【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習Ⅳ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	前後期	授業形態・回数	講義・演習	24回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習Ⅲでは数人のグループで鍼灸施術を行い、臨床実践を通して鍼灸師としての必要な知識、技術、コミュニケーション能力などを培う実習となります。 ・また、外部臨床実習として、連日同一あはき施術所にて実習を行い、実習指導者やスタッフ、患者とのコミュニケーション能力を培うと共に、施術見学および補助に携わることで、あはき師としての責任感を養う事を目的に行います。また、将来の就職を念頭に業務の一端を担う事で、現場で求められている治療以外の仕事の重要性を認識することも目的としています。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次の座学や実技で学習する医療面接、身体診察法について、附属施術所にて患者に対し実践することで、授業では学習しにくい医療面接における傾聴や共感、質問法による病態の絞り込み、信頼関係を構築するコミュニケーション能力、適切な身体診察法の選択や実施の難しさや重要性を理解する。 ・病態の推定や治療を考える事で、診察での情報収集の大切さや目的を理解する。 ・SOAPに沿った診療録 (POMR) を記載することで治療の振り返りを行い、気づきを促し今後の能力向上に努める。 ・症例発表を通じて要点をまとめ、また他班の症例報告から多くの有用な情報を得ることができることを理解する。 ・学内・学外にてあはき施術所の業務体験を行う事で治療以外の業務の大切さを理解する。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	<p>評価の観点は</p> <p>1) 実習中における態度、実技習得度、課題の内容</p>

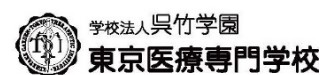
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学内：課題レポート（実習記録）による評価 ・学外：臨地見学実習レポート（デイリーノート、振り返りノート） 実習指導者による評価表 <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 臨床実習Ⅳ 2021年度 I部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標（SBOs）	講義形態
	1	外部臨床実習Ⅳ ガイダンス	・臨地実習についての説明、書類配布など	講義 実習
	2			
	3	症例報告会	・臨床実習Ⅲで治療を行った患者さんの 症例報告書を作成できる 各班毎に症例発表を行う事ができる	実習
	4			
	5	臨床実習5-1 2人の1組で班を作り、あま指施術にて1人で1人 ずつ施術を担当する	・適切に医療面接ができる ・適切に身体所見をとる事ができる ・適切に病態を推定する事ができる ・適切に治療を考える事ができる ・適切にあま指施術を行うことができる ・適切に生活指導などができる ・適切に診療録を記載できる	実習
	6			
	7			
	8	臨床実習5-2 2人の1組で班を作り、あま指施術にて1人で1人 ずつ施術を担当する		実習
	9			
	10	臨床実習5-3 2人の1組で班を作り、あま指施術にて1人で1人 ずつ施術を担当する		実習
	11			
	12	外部臨床実習4-1 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う	・時間管理ができる ・実習指導者、スタッフ、患者さんと良好な コミュニケーションをとることができる ・実習指導者の指示通り、行動できる ・1日の業務を理解し、遂行することができる ・1日の実習についてまとめ、レポートを記載 できる	実習
	13			
	14			
	15			
	16	外部臨床実習4-2 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う	・時間管理ができる ・実習指導者、スタッフ、患者さんと良好な コミュニケーションをとることができる ・実習指導者の指示通り、行動できる ・1日の業務を理解し、遂行することができる ・1日の実習についてまとめ、レポートを記載 できる	実習
	17			
	18			
	19			
	20			
	21	外部臨床実習4-3 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う	・時間管理ができる ・実習指導者、スタッフ、患者さんと良好な コミュニケーションをとることができる ・実習指導者の指示通り、行動できる ・1日の業務を理解し、遂行することができる ・1日の実習についてまとめ、レポートを記載 できる	実習
	22			
	23			
	24			
	25			

26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科



学校法人 呉竹学園
東京医療専門学校

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 あはき総合学(解剖学)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	柳原 功典	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	鍼灸接骨院経営での臨床経験を活かし、鍼灸臨床に活かせる解剖と生理学を統合して学習することを目的とする。
授業の一般目標 (GIO)	体表解剖について理解し説明できる。 解剖学総論・内臓系・内分泌系・脈管系の正常構造について復習し、試験への対応を学習する。 神経系、感覚器、運動系の正常構造について復習し、試験への対応を学習する。

【担当教員から】

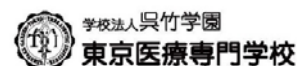
教科書	解剖学 (学校協会編)
参考書	

成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 あはき総合学(解剖学) 2021年度 I 部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			

	9			
	10			
	11			
	12			
3期	1	復習と発展 (循環器・呼吸器)	循環器・呼吸器の正常な構造を説明できる。	講義
	2	復習と発展 (消化器)	消化器の正常な構造を説明できる。	講義
	3	復習と発展 (泌尿器・生殖器)	泌尿器・生殖器の正常な構造を説明できる。	講義
	4	復習と発展 (神経系)	中枢神経の正常な構造を説明できる。	講義
	5	復習と発展 (神経系)	末梢神経の正常な構造を説明できる。	講義
	6	復習と発展 (感覚器)	感覚器の正常な構造を説明できる。	講義
	7	復習と発展 (骨)	治療に関連する骨、指標となる骨を説明できる。	講義
	8	復習と発展 (関節)	関節の障害について正常構造を説明できる。	講義
	9	復習と発展 (頭頸部の筋)	治療で触察する頭頸部の筋の起始停止・支配神経について説明できる。	講義
	10	復習と発展 (体幹の筋)	治療で触察する体幹部の筋の起始停止・支配神経について説明できる。	講義
	11	復習と発展 (上肢の筋)	治療で触察する上肢帯・上腕の筋の起始停止・支配神経について説明できる。	講義
	12	復習と発展 (下肢の筋)	治療で触察する下腿・足の筋の起始停止・支配神経について説明できる。	講義

2021年度 鍼灸マッサージ科



【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 あはき総合学(社会あはき学)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	和田 真紀子	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	人口問題から疫学、感染症、生活習慣病、さらには環境問題等の現状と問題点を解説するとともに、健康保持のための個人レベル、社会レベルでの方策について医療を担う一員として理解する。
授業の一般目標 (GIO)	疫学・統計を学ぶことで、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として、社会の中で活動していく上で必要な日本の保健衛生の現状を知る。

【担当教員から】

教科書	「関係法規」 (学校協会編) 「衛生学・公衆衛生学」 (学校協会編)
-----	------------------------------------

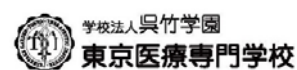
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 あはき総合学(社会あはき学) 2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			

	22			
	23			
	24			
3期	25	疫学	疫学研究の段階、コホート研究と患者対照研究の違いについて区別することができる。	講義
	26	具体的な統計資料	人口静態・動態統計国民生活基礎調査、患者調査の特徴を具体的に説明することができる。	講義
	27	免許・試験に関する総括	三年間の履修を振り返り、名簿登録などの諸手続きを行うことができる。	講義
	28	業務・罰則・医事関係法規に関する総括	三年間の履修を振り返り、適切な範囲の業務ができる。また、他の医療従事者と協調でき	講義
	29	現代医療と医療倫理についての総括	三年間の履修を振り返り、臨床現場で医療従事者として適切な行動ができる。	講義
	30			
	31	健康・環境についての総括	三年間の履修内容を振り返り、臨床現場で生活習慣病等の患者に疾患予防のアドバイスが	講義
	32	産業衛生・精神保健・母子保健の総括	三年間の履修内容を振り返り、臨床現場で我が国の労働衛生・精神障害・母子保健対策と協	講義
	33	感染症に関する総括	三年間の履修内容を振り返り、感染症の特徴に応じた蔓延予防対策ができる。	講義
	34	消毒全般に関する総括	三年間の履修内容を振り返り、臨床現場で適切な消毒ができる。	講義
35	疫学・統計の総括	三年間の履修内容を振り返り、適切な手法を用いて疫学研究や統計調査ができる。	講義	
36	衛生学全般の総括	三年間の履修内容を振り返り、臨床の現場で疾病予防に繋がるよう、医療従事者として適切に行動できる。	講義	

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科



【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 あはき総合学(リハビリテーション)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	田中 正人	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	理学療法に関わってきた経験を活かし授業の展開を行う。 医療における障害の捉え方や評価法を理解し、リハビリテーション関係職種が実際に行っていることの学習を行う。 2年時で疾患やリハビリテーション医学の基礎について学習したことをふまえ、各疾患別のリハビリテーションを学習を行う。また、身体の正常な動きについて学習を行う。
授業の一般目標 (GIO)	各疾患に対するリハビリテーションアプローチを理解する。 国家試験問題への十分な知識を習得する。

【担当教員から】

教科書	リハビリテーション医学（東洋療法学校協会編）
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 あはき総合学(リハビリテーション) 2021年度 I部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	脳血管障害	脳血管障害の症状、合併症、評価について説明ができる。	講義
	2	脳血管障害	脳血管障害の各時期の治療法、ゴール設定およびリスク管理について説明できる。	講義
	3	脊髄損傷	脊髄損傷の症状、合併症、到達可能なADLについて説明ができる。	講義
	4	脊髄損傷	脊髄損傷の各時期の治療法とリスク管理について説明ができる。	講義
	5	小児	小児のリハビリテーションの特徴と脳性麻痺の定義、分類について説明ができる。	講義
	6	小児	脳性麻痺の評価、治療が説明ができる。	講義
	7	切断	切断の原因、分類が説明できる。	講義
	8	切断	切断の合併症、治療について説明ができる。	講義
	9	各関節の動き・骨関節疾患	各関節症の動きと病態・リハビリテーションについて説明できる。	講義
	10	骨関節疾患・骨折疾患	骨関節疾患・骨折のリハビリテーションについて説明できる。	講義
	11	試験		講義
	12	まとめ	1期の範囲を説明できる	講義
	13	関節リウマチ	リウマチのリハビリテーションについて説明ができる。	講義
	14	末梢神経麻痺	末梢神経麻痺のリハビリテーションについて説明ができる。	講義
	15	パーキンソン病	パーキンソン病のリハビリテーションについて説明ができる。	講義
	16	呼吸器疾患	呼吸器疾患のリハビリテーションについて説明ができる。	講義
	17	心疾患	心疾患のリハビリテーションについて説明ができる。	講義

2期	18	運動学、歩行	人体の基本的な運動学、歩行が説明できる。	講義
	19	運動学、歩行	人体の基本的な運動学、歩行が説明できる。	講義
	20	各疾患のリハビリテーションの復習	各疾患のリハビリテーションの評価・治療法などを説明できる。	講義
	21	各疾患のリハビリテーションの復習	各疾患のリハビリテーションの評価・治療法などを説明できる。	講義
	22	各疾患のリハビリテーションの復習	各疾患のリハビリテーションの評価・治療法などを説明できる。	講義
	23	試験		講義
	24	まとめ	2期の範囲を説明できる	講義
3期	25	リハビリテーション医学総論の復習	医学的リハビリテーションについて説明できる。	講義
	26	リハビリテーション医学総論の復習	医学的リハビリテーションについて説明できる。	講義
	27	リハビリテーションの評価法の復習	リハビリテーションの評価法について説明できる	講義
	28	リハビリテーションの評価法の復習	リハビリテーションの評価法について説明できる。	講義
	29	リハビリテーションの評価法の復習	リハビリテーションの評価法について説明できる。	講義
	30	リハビリテーションの治療法の復習	リハビリテーションの治療法について説明できる。	講義
	31	リハビリテーションの治療法の復習	リハビリテーションの治療法について説明できる。	講義
	32	リハビリテーションの治療法の復習	リハビリテーションの治療法について説明できる。	講義
	33	各疾患のリハビリテーションの復習	各疾患のリハビリテーションの評価・治療法などを説明できる。	講義
	34	各疾患のリハビリテーションの復習	各疾患のリハビリテーションの評価・治療法などを説明できる。	講義
	35	試験		講義
	36	まとめ	リハビリテーションの概要・各疾患に対してのアプローチが説明できる。	講義

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科

【分野】

専門分野

総合領域



学校法人 呉竹学園

東京医療専門学校

【科目】

あはき総合学(生理学・病理学)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	橋本 和道	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	構造機能学と病理学の知識を基に、現代医学的理論に基づいた治療を考えられることを目的とする。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能の正常な状態と、病的な状態を理解する。 ・疾病の成り立ちと形態学的特徴を理解する。

【担当教員から】

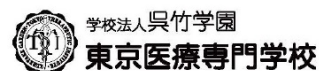
教科書	生理学（第3版）：東洋療法学校協会編 病理学（第2版）：東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習熟度の確認 修得した知識の応用力
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習と発展を行うこと
履修にあたっての留意点	・授業中のスマートフォン、携帯電話の使用は原則禁止 ・教科書中心の予習、復習と発展をすること

【授業計画】 あはき総合学(生理学・病理学) 2021年度 I部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13	復習と発展 (生理学の基礎)	生命現象とホメオスタシスについて重要な語句を説明できる。	講義
	14	復習と発展 (呼吸)	呼吸がホメオスタシスにどのように関わっているか説明できる。	講義
	15	復習と発展 (消化と吸収・代謝)	体を維持するための栄養摂取について、摂食から代謝まで流れを説明できる。	講義
	16	復習と発展 (排泄)	人体にとって重要な排泄について説明できる。	講義
	17	復習と発展 (体温・生殖と発生)	体温維持に関与する仕組みを説明できる。	講義

2期	18	復習と発展（感覚）	特殊感覚の仕組みと伝導路について説明できる。	講義
	19	復習と発展（病理学の基礎）	病理学の基本を理解し、説明できる。	講義
	20	復習と発展（病因）	病を発症する原因を、内因、外因とも挙げる ことができる。	講義
	21	復習と発展（退行性病変）	退行性病変の意味と現象を、具体的疾患を例 に説明できる。	講義
	22	復習と発展（進行性病変）	進行性病変の意味と現象を説明できる。創傷 治癒を説明できる。	講義
	23	復習と発展（まとめ）	退行性病変の意味と現象を、具体的疾患を例 に説明できる。	講義
	24	復習と発展（まとめ）	進行性病変の意味と現象を説明できる。創傷 治癒を説明できる。	講義
3期	25	復習と発展（神経：伝導と伝達）	興奮の伝導、伝達について説明できる。	講義
	26	復習と発展（神経：中枢神経・末梢神経）	中枢神経系と末梢神経系の特徴を説明でき る。	講義
	27	復習と発展（神経：脳）	脳の機能局在、中枢を挙げる ことができる。	講義
	28	復習と発展（アレルギー）	アレルギーの仕組みと特徴を具体例を挙げて 説明できる。	講義
	29	復習と発展（腫瘍）	悪性腫瘍と良性腫瘍について説明できる。	講義
	30	復習と発展（腫瘍）	腫瘍の分類とそれぞれの特徴を説明できる。	講義
	31	復習と応用（鍼灸治効理論への応用）	鎮痛と発痛について生理学・病理学と結び付 けて説明できる。	講義
	32	復習と応用（鍼灸治効理論への応用）	鍼灸刺激の伝導路を生理学的に説明できる。	講義
	33	復習と応用（鍼灸治療への応用）	生理学・病理学的に様々な現象を説明でき る。	講義
	34	復習と応用（鍼灸治療への応用）	生理学・病理学的に様々な現象を説明でき る。	講義
	35	まとめ（生理学）	人体の正常な働きについて理解できる。	講義
	36	まとめ（病理学）	人体にとって病んでいる状態が理解できる。	講義

2021年度 I 部鍼灸マッサージ科



【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 あはき総合学(東洋医学概論・経絡経穴概論)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	林 信治	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	臨床経験を活かした実践的臨床的なつながりをもつ東洋医学の学習をおこなう。1 年次・2 年次に学習した東洋医学概論および経絡経穴概論の知識を総合して、臨床に応用することができる知識を習得する。
授業の一般目標 (GIO)	東洋医学の理念に基づいた病証概念、治療原則、弁証論治を理解し臨床に応用できる。十四経脈や要穴に所属する経穴の分類と部位と解剖学的関連を理解する。1 年次・2 年次に修得した単元を復習し、応用能力を身につける。

【担当教員から】	
教科書	新版 東洋医学概論・新版 経絡経穴概論（東洋療法学校協会編）
参考書	経絡演習図（呉竹学園編） 東洋医学概論（東洋療法学校協会編）
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】あはき総合学(東洋医学概論・経絡経穴概論)2021年度 I部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			

2期	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	弁証論治・骨度法・接続部位	弁証論治について総合的に理解する。骨度法や経絡の接続部位について理解し説明できる。	講義
	26	弁証論治・要穴	弁証論治について総合的に理解する。要穴の解剖学的位置を理解する。	講義
	27	弁証論治・要穴	弁証論治について総合的に理解する。要穴の解剖学的位置を理解する。	講義
	28	四診法・十四経脈（督脈～肺経）	四診法を総合的に理解し説明できる。十四経脈を解剖学的に理解説明できる。	講義
	29	四診法・十四経脈（大腸経～脾経）	四診法を総合的に理解し説明できる。十四経脈を解剖学的に理解説明できる。	講義
	30	四診法・十四経脈（心経～膀胱経）	四診法を総合的に理解し説明できる。十四経脈を解剖学的に理解説明できる。	講義
	31	四診法・十四経脈（腎経～肝経）	四診法を総合的に理解し説明できる。十四経脈を解剖学的に理解説明できる。	講義
	32	総復習	問題を解くことができる。	講義
	33	十二経脈病証	十二経脈病証を総合的に理解し説明できる。	講義
	34	奇経八脈病証・奇穴の復習	奇経八脈の理解を深める。奇穴の解剖学的位置と主治を理解し説明できる。	講義
	35	試験		講義
	36	3期試験解説 総復習	3期の総合的理解をするため復習を行う。	講義